



昨年度懇親会の盛況

恩師・先輩・仲間とかなら、呑み、歌う

前回の同窓会総会と懇親会は、平成八年五月十一日土曜日午後二時から、母校の会議室と多目的ホールで開催されました。当日は

写真のように旧制中学の

大先輩の方々から、卒業したばかりの若い人達まで、二百人余の参加があり、豪華なビュッフェ、飲みきれないほどのドリンクと、各種イベントで盛り上がりました。中でも「くじ引き」で一等のゴールドコインをひきあてたのが、青木慶子先生で、皆から盛大な拍手がわきあがりました。今年も、多くの懐かしい恩師をお迎えし、いろいろな催しものが準備されています。ぜひ、同期、クラス、クラブの仲間誘いあわせ、ご参加費わずか千円です。



総会・懇親会6月28日(土) 母校で! 詳しくは4ページ

石神井高校同窓会紙
「きずな」第46号
平成9年5月28日

定期総会開催のお知らせ

同窓会規約第9条の規定により平成9年度定期総会を下記の通り開催しますので、招集いたします。

平成9年4月吉日

同窓会会長 高橋 勇

記

1. 日時 平成9年6月28日(土) 午後2時より
2. 場所 母校会議室
3. 議事
 - 第1号議案 平成8年度事業報告
 - 第2号議案 同 会計収支決算報告ならびに会計監査報告
 - 第3号議案 役員の改選
 - 第4号議案 平成9年度事業計画案
 - 第5号議案 同 会計予算案

備考 総会終了後、恩師の先生方にも加わっていただき懇親会を持ちます。

目次

特集・各界で活躍の同窓生	
航空幕僚長 村木鴻二空将	6ページ
日通副社長 村松誠氏	7ページ
紫綬褒章受章 海老澤敏氏	8ページ
ベーカー・コンサルタント 廣瀬 満雄氏	18ページ
同窓会案内等	
会長あいさつ	2ページ
総会・懇親会について	4ページ
総会資料	1, 2, 20ページ
東京校歌祭について	9ページ
同期会報告	12~14ページ
中学2回、高校3回、高校8回、高校13回、高校29回	
会員便り	15~17, 19ページ
学校関係	
校長あいさつ	3ページ
鉄研OBの皆様御免なさい	19ページ
本年卒業生余話二題	8ページ
母校本年度進学状況	3ページ
黒菱関係	
ケルン再建	10ページ
黒菱山荘より	11ページ

仕事、生き方はそれぞれでも



高橋(旧姓・井口)会長

同窓会会長 高橋 勇(中二回)

今年には各種の開花が例年より早いようです。地球温暖化の影響なのでしょう。

会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、同窓会の定例二大事業は、総会後の恩師を交えた各期生が一同に会してもつ懇親会と、会報「きずな」の編集発行ですが、昨年度から「東京校歌祭」への参加が加わりました。そして、これらの行事を企画し推進して下さる役員幹事、有志の方々を見ますと、既に現役を離れた人から現職で忙しい人、これから就職する若い人まで、職種も異なり年齢は勿論、生き方も異なる人が時間の都合をつけ、意見を述べ合い、一つにまとまって実行しています。まさに、「石神井生」としてのきずなで動いているプロセスこそ、その結果よりも貴重な同窓会の営みだと嬉しく思っております。更に、地方にいる会員の方からも同窓会の発展を喜ぶお便りや、ご批判のご意見やが届きます。これとても同窓生であればこそと難く受け止めております。

また、母校に参集できない会員の方々に情報を提供しているのがこの会報「きずな」です。ところが、住所変更等で「不達」で本部に戻ってしまうのも多いのが現状です。各期幹事のご尽力で正確な住所の把握に努めておりますが、発送業務との関係もあり、問題点も残っています。この会報をご覧くださった会員の方の情報提供をお願いするとともに、全会員との交流はこの「きずな」が唯一ですので、地方の会員の動きなどのニュース等があれば、ご投稿をお待ちしている次第です。関連事項のお願いとして、同窓会活動の横の推進軸が同期会です。その会合等がありながら本部でつかめないこともあります。同窓会幹事名簿で抜けている期の前後の方からの情報を期待しております。

末筆になりましたが、母校の今後益々の発展と、会員各位のご多幸を祈念して、ご挨拶と致します。

星野 喬先生著作のご案内

星野 喬先生は、平成八年五月「古典の愉しみ」(定価千八百円)を北泉社から発刊されました。同書は先生が往昔の生活を懐念埋もれた言葉の端々に無性に魅せられ、折に触れて書き留めておいた私家感齋の花(全五巻)を要約し、活字も大きくして老眼にも読み易く装幀を改めて出版されたものです。

お問い合わせ「北泉社」電話03(3226)2225
ISBN4-938424-62-2 C1095

平成9年度 同窓会定期総会資料

定期総会日時場所 平成9年6月28日(土)午後2時より
母校会議室にて

◎ 第1号議案

平成8年度事業報告

- ☆ 4月13日 総会に向けての準備企画委員会が始動する。
 - ☆ 4月21日 会報「きずな」第45号を会費納入振込依頼書とともに発送する。
 - ☆ 5月11日 同窓会定期総会開催。終了後は恩師をまじえて懇親会を和やかに行なう。
 - ☆ 6月2日 母校体育祭に会長が出席して、生徒を激励する。
 - ☆ 6月～ 黒菱山荘の補修が行なわれる。
 - ☆ 母校柔道部、相撲部、関東大会・国体に出場する選手団体に奨励金を贈って奨励する。
 - ☆ 11月4日 第4回東京校歌祭(日比谷公会堂にて開催)に「のぼり旗」を持って正式に参加。
 - ☆ 3月12日 母校卒業式に会長が参列して祝辞を述べる。(卒業生同窓会に入会)。
- ◇ 役員会・幹事会を随時行なう。

◎ 第2号議案

- ☆ 平成8年度会計決算報告ならびに会計監査報告<本紙20頁>

◎ 第3号議案

- ☆ 役員改選(任期 平成9年7月1日～平成11年6月30日)について<本紙20頁>

◎ 第4号議案

- 平成9年度事業計画
- ☆ 行事予定表
- ☆ 会報「きずな」第46号の発行
- ☆ 総会・懇親会の開催
- ☆ 第5回東京校歌祭への参加(9月20日、於日比谷公会堂)。
- ☆ 同窓会名簿(1999年度版)発行へ向けての準備
- ☆ 黒菱山荘の三者協議を継続する。

◎ 第5号議案

平成9年度予算(案)

1 収入の部	6,345,779	
繰越金	414,779	
入会金	1,500,000	
年会費	4,500,000	
その他	1,000	
2 支出の部	6,345,779	
運営基金積立	500,000	累計14,500,000
A 総会費	900,000	
B 本部費	400,000	
C 幹事会費	300,000	
D 広報費	900,000	
	(きずな46号編集印刷)	
E 発送費	2,000,000	
	(振込経費、発送費(90円×15,600部))	
F 行事費	300,000	
	(第5回東京校歌祭参加)	
G 山荘費	600,000	補修費を含む
予備費	515,779	
3 差引残額	0	

石神井高校のこの一年

校長 栃本 忠良

平成八年四月に七名の先生方をお送りしたと思つたら、本年も小林洋子教頭先生を初め、六名が本校を去られました。事務室の職員の異動も含めて、本校は今激動期を迎えています。石神井高校のこの一年を振り返り、学校の近況報告とします。

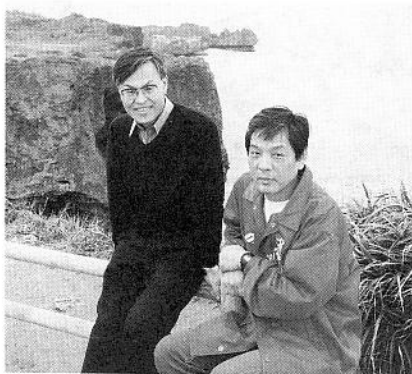
雨天や嵐につきまとわれた昨年とは異なり、球技大会に始まった学校行事は、体育祭、文化祭、遠足等の学校行事は全て、天候に恵まれて実施することができました。

体育祭では、難しい校歌が大合唱となつて校庭に響きわたり、大集団での合唱のすばらしさに感動をおぼえました。応援団、マスゲーム、マスコット、各種競技等でのハッスルぶりは相変わらずです。

文化祭では、減りつつあつた演劇への挑戦が増え、練馬文化センターのステージばかりではなく、本校の体育館ステージでの熱演を生みました。学校行事の原点として、本年度の文化祭ステージ部門を全部本校校内に移して、ステージ演目を考えてみることにしました。練馬文化センターの大舞台を踏めるといふ感激を味わうことはできなくなりますが、校内会場の文化祭が、質的にも向上して、大いに盛り上がりつつあることを深く期待しての方針です。また、PTAのバックアップのもとに、傷みの出てき

た黒菱山荘修理費捻出のために、バザーを実施しました。毎年同窓会の黒菱山荘委員会のお世話で、山荘を訪れる行事を実施するPTAの感謝の表われでした。

修学旅行は沖縄でした。グループごとにタクシーで巡る贅沢な企画でしたが、それに見合う立派な成果をあげたようです。ちなみに、この学年には、山下章先生(十九回生)、木本恵美子先生(二十九回生)、加藤純子先生(三十回生)の三人の本校同窓生が学級担任として引率しております。



栃本先生と山下先生

した。今年は、北海道方面に行く予定です。

昨年の生徒募集の苦い経験のもとで教職員全員が一致協力し、同窓生の皆様や地域の方々のご理解を得て、本年の募集は定員割れを全く心配しないうすみ、新一年生を迎えました。やる気満々の元気がいっぱい、生徒ばかりです。是非皆様の後輩のこれからの活躍ぶりに、目を留めていただきたいと思ひます。

緑豊かな中に伝統を築いてきた石神井高校も、気付いてみれば林は切り払われ、畑は姿を消す、そのような環境の変化に取り込まれてしまっています。正門前の林はマンシオンに、校庭南隣森

母校、今年の進学状況

今年の進学状況は多少上向きというのが学校の分析ですが、4月8日発売の「サンデー毎日」恒例の「全国著名1380高校の主要大学合格者数」によりますと、石神井の進学状況は取り上げられています。このまま推移しますと、遠からず石神井の名がこの特集から消えてしまうのではないかと危惧されます。

石神井の成果(卒業324名)

東京産大	1	専修大	3	東京電機大	1
明治大	2	明治学院大	4	工学院大	2
法政大	5	学習院大	1	駿河台大	8
中央大	2	成蹊大	1	獨協大	2
青山学院大	2	武蔵大	7	神奈川大	1
日本大	15	東海大	2		
創洋大	16	東京理大	1		
駒沢大	5				

第3学区比較

	東大	早大	慶応	明治	立教	法政	上智	中央	青学
石神井				2		5		2	2
井草		2		9	1	7		7	4
大泉			5	22	13	23	4	16	10
西	8		39	35	29	20	22	46	19
富士	1		6	52	29	41	13	48	17
豊多摩		3		13	6	16	2	15	1

八年度人事異動(教職員分のみ)

退職 吉田雅夫 (保体)

斎藤久美子 (図書)

栄転 小林洋子 (教頭) 高島高校長へ

黒萩美登利 (英語) 中野工高へ

松野佳代子 (家庭) 田無工高へ

山本学 (数学) 小石川高へ

転入 久住幸雄 (教頭) 小山台高より

梅原秀紀 (保体) 三鷹高より

小川真一 (数学) 大島南高より

関野敏子 (家庭) 大山高より

西村文良 (国語) 板橋高より

服部文子 (社会) 板橋高より

都立高校の改革の話が、いよいよ身近なものになってきました。これからは、公立私立とも、生き残りをかけて工夫してゆかねばならない時代になりました。進学校としても、スポーツ活動の活発な学校としても知られている石神井高校ですが、これからはどういう在り方をしていくべきでしょうか。母校を愛する同窓生の皆様の良いお知恵をお寄せいただきたいと思います。

会のお知らせ

97.6.28(土)
午後3時より
母校多目的ホール
にて



WHAT`s NEW!

卒業生の皆さんの参加・協力に
会の成功はかかっています。
ぜひとも、母校へ
友達をさそって参加しよう!

吹奏学部OB・OGによる生バンド演奏
心得のある方は楽器を持って集まろう!

くじ引きプレゼント(卒業生からの寄贈)
`96年同窓会では
宝石や金貨があたったラッキーな人も!

参加費1.000円



豪華なビュッフェスタイル!
同窓会から補助金が出るので
おいしいもの盛り沢山です

ビデオコーナー

なつかしの体育祭ビデオや
歴代東京男子学院ビデオを
ばっちり放映します!

クラブ・部活コーナー

名簿受付や幹事会ができます!

賞品募集

同窓会を盛り上げるために
皆さんから賞品の寄贈を募っています!
賞品は当日受付でお預かりします

ビデオ募集

あのなつかしの体育祭を撮影したビデオや、
石神井文化祭名物「東京男子学院」の
ビデオをお持ちの方ぜひ
事務局までお持ち下さい。
その他上映したいものがある人は、
お気軽にお持ち下さい。

同期会を開催したい人は、
教室を一部開放しますので
幹事会を開きませんか?
(午後1時~3時まで)

各クラブのOB・OGの皆さん
久しぶりに集ってみませんか?
当日専用の受付デスクを用意しますので、
声かけあってご参加下さい。



子づれ参加も大歓迎!!

校歌を久しぶりに歌おう!
(同窓会・校歌祭)

お問い合わせ/ご連絡先
同窓会実行委員会
中谷内(なかやち)
TEL.&FAX. 03-3487-1912

石神井高校同窓会・懇親



恩師もみなさんにお逢いできるのを楽しみにしています



誰が来る？彼がくる！
とにかく2、3人に
声かけ集まろう！



母校体育祭



メッセージボード
当日出席できなかった人のお便りや、
メッセージを載せます。

学校もいろいろ変化しています(10年以上顔を出していない人、オドロキますよ!)
正門前のキャベツ畑は豪華マンションに。体育館やクラブハウスはきれいに充実し、
プールはなんと!3Fに位置しています。

航空幕僚長

村木鴻二空将

(高校十回)

Q 本日はご多忙の中、同窓会紙「きずな」のためにお時間をお割き頂きありがとうございます。早速ですが、まず空幕長の生い立ちから伺いたいと思います。

A 私は父が軍人であった関係で旧満州のチチハルで生まれました。もともと生後二年程で父の郷里の山口県萩市に戻りましたので、終戦後の引き揚げの憂き目にはあわないうで済みました。父が復員後、長崎で職を得ましたので小学校五年生からは長崎で過ごし、実は高校は長崎東高校に入学しました。ところがその夏、父の転勤で上京することとなり、転入試験を受け、石神井に転入したわけです。

Q 村木先輩は高校十回生にあたられるわけですが、当時の石神井はどんな学校だったのでしょうか。

A 当時は畑に囲まれた木造校舎で、大変な田舎という感じでした。道路も武蔵岡駅から踏み切りまでしか舗装がありませんでした。グラウンドが広く野球とサッカーを同時に練習できたように覚えていますが、学校の南側の野原で弁当を食べたり、相撲等したことも思い出します。石神井にきて困ったことが一つありました。長崎では其学といっても男女別クラスでパンカラを旨としていましたので石神井の体育でフオークダンスがあり、女性の

手を握らなくてはならないのは本当に当惑したものです。おかげで、運動神経は人並み以上と自負していましたが体育の成績が落ちてしまいました。

Q 高校生活は如何でしたか。

A 中学時代からバスケットボールに打ち込んでいたので、当然石神井でも専らバスケットばかりで、三年生ではキャプテンをしました。一年と三年では猪谷先生が担任で、英語の池先生はバスケの顧問ということで可愛がっ



てもらいました。おかげで、英語劇に参加したり英語雄弁大会に石神井代表として参加したりしたことも思い出です。他には体育祭が盛んで仮装等に凝って愉快でした。それから

Q 当時の進学状況と御自身の進路決定についてお話し下さい。

A 東工大や都立大等にかなり入り、学校も模擬試験結果を廊下に貼りだしたりしてやる気はありました。私はバスケでやって行きたい気持ちもあつて期待もされていたと思うので

すが選手としてはやや身長がどうかということがあり、父がパイロットだったことから戦闘機のパイロットというもう一つの選択肢を追求するために防衛大学校に進んだわけです。

Q 防大ではどのように過ごされましたか。

A 入校のため電車を降りたら、バスケット部のマネージャーが私を待っていました。ですから防大でも一応航空工学専攻ではあったのですがバスケット中心の日々でした。その頃は防大も強くて神奈川リーグではいつも優勝争いに絡んでいました。四年生のときにはキャプテンをしましたし、神奈川県最優秀選手にも選ばれました。

Q 航空自衛官としての道筋をうかがいます。

A 三次元空間の中で自由自在に動き回ることが望みでしたから操縦士の印であるウイングマークをもらうまでは必死で努力しました。おかげで航空自衛隊が創立以来現在まで装備した戦闘機F86F、F104、F4E、F15、F1全ての操縦資格を持っています。おそらく私一人だと思えます。それからちよつと自慢めきますが、戦技競技会いわゆるトップガンですが、これに四回も出場し四回とも優勝したのも珍しいのではないかと思います。

Q 航空幕僚長のお仕事についてお聞かせ下さい。

A 一口に説明するのは難しいのですが、幕僚長というのは幕僚の長すなわち参謀の長であり防衛庁長官を軍事的立場で補佐します。具体的には航空自衛隊の五万人からなる組織をまとめ、本来任務である侵略の未然防止と一朝有事には敵の航空戦力を撃破し我が国の平和と独立が守れるように、日頃から準備をし、有事には軍事専門家の立場で長官を補佐します。また、最近国民の皆様から期待されている国際貢献や大規

模災害対応の多様化した任務等もスムーズに行えるよう準備、運営等を実施します。

Q 同窓会員に一言お願いします。

A 同窓会への疎遠、申し訳なく思っています。青春の良い思い出の延長としてコンタクトを取り続けるべきであったと、多少過ぎ去った時間を惜しむ気持ちです。

Q 今後の同窓会回帰を大歓迎申し上げます。では、最後に現在の石神井生への激励を頂きたいと存じます。

A テレビで石神井の体育祭が取り上げられたのを観ましたが、そこに取り上げられた良い意味での若者のもつ自由と奔放さが続くことを期待します。青春をドラドラ過こしてしまふな。メリハリと余裕を持って充実した青春時代を過ごしてもらいたいと、希望します。(構成・文責 杉本幹男)

村木鴻二航空幕僚長プロフィール

航空自衛隊五万隊員の頂点に位置し、我が国の領空防衛等に関して専門的立場から防衛庁長官を補佐する任務を果たしておられます。

昭和十五年一月 誕生

昭和三十三年三月 石神井高校卒、防大入学

昭和三十七年三月 防大卒、航空自衛隊入隊

昭和四十七年六月 米国防留學

昭和五十四年八月 飛行隊長

昭和六十三年三月 飛行群司令

昭和六十六年三月 航空幕僚監部防衛課長

昭和六十八年三月 第八航空団司令

平成二年七月 航空幕僚監部人事教育部長

平成四年六月 南西航空混成団司令

平成五年七月 航空幕僚副長

平成八年三月 現職

各界で活躍の 同窓生を訪ねて

日本通運株式会社

代表取締役副社長

村松 誠氏

(中学二回)



Q 本日はご多忙の中、お時間をいただきまして、早速インタビューに入らせて頂きます。まず、昨年の同窓会総会にご出席い

いただきましたが、その際の印象、ご提言などおありでしたらお願い致します。

A 卒業して五〇年にもなるもので、久しぶりに石神井の校舎に行きました。同窓会に出るサッカー部の若い連中がいて楽しく過ごして頂いた。もともと、若い連中というのは僕らからみてのことで、実は六〇過ぎなんだけれどね(笑)。同窓会といえは、早大の教授である内田君が以前、一生懸命やっていたことがありましたね。ピュッフェ方式はいいんじゃないのかな。僕らジジイだから食べるよりは喋る方がいいわけですね。懐かしい先生方がおられたのはいいですね。手嶋先生は在学時ご指導いただかなかったけれど、竹野先生は当時まだ独身で、卒業後も仲間感覚で旅行などしたので、当日帰路と一緒に懐しかったですね。

Q では、在学時の十四中の雰囲気、環境については如何でしたか。

A そうねえ、僕たちの入学は昭和十七年、戦争の真つ只中だから、最初に仮校舎っていったね、旧青山師範の跡、いまの北青山三丁目あたりかな、そんなところで仮校舎の生活をしたんですよ。それでね、四月の十八日に例のB25の東京初爆撃ってのがあって、空襲警報が鳴って皆がグラウンドに出てわあわあやっているときにはもう青山の上空を通過してました。二期を迎える頃かしらね、新校舎が出来て、皆、行軍で、青山から石神井まで歩いて移りました。当時はよく歩きました(笑)。

Q ということは、あらかじめ現在の所に校舎が建つ予定だったわけですね。

A そうそう、だからその時点で十四中ではあったけれど、石神井中学になるよと言ったとは大体分かってたわけですね。

Q 当時、戦争中というわけですが、十四中の生徒の生活はどんなものだったのでしょうか。

A 今からみれば、まあおんびりしてたと思います。だけれどね、それはそれなりに戦争中の少年だからねえ。配属将校つてのがいらしたからね。陸軍から。当時は二人くらいで、佐藤少尉と千屋中尉とおっしゃったような記憶があります。だから、学生の中で学術優秀、体力のあるつてのは、陸軍士官学校、海軍兵学校あるいは幼年学校に進むよう奨励された時代ですから。進学率はよかつたんじゃないのかな、同級の西垣君なんかは大蔵事務次官をやりましたからね。それから早稲田の政経の教授やつてる内田君なんかも親しくつきあっている仲間です。当時は高等学校から帝国大学に進んだわけだけど、その高等学校にもかなり進学しましたしね。のんびりした中にも規律はものすごくあつたと思います。

石神井の環境は、本当に武蔵野の防風林に囲まれた中で、そのなかに藁葺き屋根の農家がある、そんな調子で、学校から富士街道の方へ行くと、左に一軒それから右側に一軒あつたのが、いまの同窓会長高橋さんの家でした。僕は保谷から歩いて通っていました。毎日、二十五分くらいかかったかな。

Q あと、思い出深い出来事ですか、恩師の思い出などございましたら。

A これはねえ、スタートは一年生ABCDE五組二五〇名だったですけどね、僕はA組で亡くなった英語の新井勉之先生、B組が地理

の三浦先生、C組が数学の辻田先生、D組が金子先生で国漢、E組がやはり新井という体操の先生でね、その頃から日本の国内が空襲やなんかで勉強どころではなくなったわけですね。三年四年になると疎開ということとで地方へ行く人も増えたり工場動員というところで、僕も三年生の八月から四年生の八月までは田無にあるシチズン時計で旋盤工でした(笑)。卒業の時は二組までに減ってしまいました。学制のはざまでしたから、種々変化しました。今頃になると、途中で去った人達も連絡がとれて、時々集まっております。

一年の夏休みには赤倉に行ったり、三年の時には富士の裾野の板妻廠舎に泊まって軍事教練を受けたけど、もう弾丸もなくて、たしか三八式歩兵銃で実弾一発しか射たしてくれなかったですよ。夜、非常呼集があつたりしたが、今では楽しい思い出です。そういうえば、体力章検定というのもあつて、三五千口の土嚢を担いで百メートル走ったり、二千メートルや百メートル走、手榴弾投げなんかもあつて、僕は二千は早かったことを覚えてる。とにかくよく走らされたですよ。

思い出といえは、戦後すぐに一つ下が井草と演劇をやつて、大隈講堂でしたけど、当時は考えられないキスシーンが劇中でやって、「サン」という今の夕刊新聞みたいのに載って騒ぎになったことがありましたよ。そのときのメンバーの中に劇団「四季」の水島君も居たと思います。彼は三年下かな。ま、とにかく皆でわあわあよく遊んだな。

Q 石神井、卒業の後の「経歴について伺いた
いと思います。

A 実は僕は小学校の頃からサッカーをやっ
ていて、頭は何のために使うんだ、ヘ
ディングのために使うんだなんていつ
て育ったんです(笑)。その頃からの仲間が
各大学、特に都内の大学でリーグAクラス
のチームで活躍していました。僕は一年遅
れで慶応に入ったものだから、彼らに先輩
面されるのがいやで、準硬式野球に転向し
ました。各地のグラウンド開きなどに呼ばれ
て歩き回りました。その後、今の会社に入っ
て、大体は千葉と横浜で勤めてましたが、千
葉では長くプラント建設に関わりまして、
昭和五十年頃から、中近東などでコンビ
ナート建設などに携わりました。今は、むし

ろ社外の外部役職といいますが、業界や国の
諮問にお答えするような仕事は主ですね。

日本トラック協会、日本港湾協会やJRの
債務解消などの会に関係しています。

Q 人生訓、あるいは座右の銘についてお聞き
したいと思います。

A 何もないけれど、敢えて言えば「自分に厳し
く、他人には寛容に」と思っています。僕た
ちは価値観が常に変動してきた世代でね、で
も昭和一桁というのは案外本音はガツリ
していると思いますよ。今の世相、これでい
いのかと思いますもの。年に一度、慶応で
物流の話をする機会があるのですが、このこ
ろの教授達はなんだ、言動としての破壊活動
ばかりで、じゃあどうするのかという建設的
なものが無いのが残念だといっているんです。

Q では最後に同窓委員と石神井在校生に一言お
願い申し上げます。

A まあ、昔と違うかもしれないが、高校生時
代ってのは、人生の基礎になる部分になるん
だろうから、友人を大切にしていたほうが
いいんじゃないかなと思います。心の友
が出来るのか出来ないのなあってね。人格形
成の時だろうから、自立のスタンスだけは確
立していくべきで、あそこだとフラフラ
動いていくのではなくて自己というものを確
立する時期だと思いますね。価値観が多様化
している時代だけに、日本の将来を担う若人
がこの辺のスタンスをはっきり持っていて
欲しいと思います。

そういえば、今うちの会社には石神井出身が
十三名いますよ。その内二人が部長さんでこ

高校三回 海老澤 敏 氏 受章の栄

平成八年四月「春の褒章」で、紫綬褒章受章の栄に輝い
た海老澤氏は、昭和六年東京生まれ。昭和二十六年石神井
卒。昭和三十年東京大学文学部美学美術史学科卒業。同大
学院修士課程修了。昭和三十七年、三十九年、フランス政



府給費奨学
生として滞
仏

現在、学
校法人国立
音楽大学学
園長、理事
長。他に日
本モーツァ
ルト協会
ルト協会

長をはじめ、多方面で活躍している。NHK教育テレビ
の「市民大学」講師、「N響アワー」レギュラー説明者
をつとめるなど、ラジオ、テレビへの出演も多い。また、
とりわけモーツァルト研究者として世界的に知られ、
平成元年には同ザルツブルグ国際モーツァルトチーム財
団法人管財団員に選任された。芸術選奨文部大臣賞、サン
トリー学芸賞、フランス政府学術功労勲章オフィシエ
および芸術文化勲章オフィシエ、ザルツブルグ州黄金
勲章、オーストリア共和国功勲章学術芸術第一等十
字章等を受けている。著書、訳書、論文としては、「ル
ソーと音楽」「ルソー全集・音楽論」「モーツァルト像
の軌跡」「モーツァルトの生涯」「新モーツァルト考」、
「モーツァルトの旅(全五巻)」「モーツァルトを語る」、
「モーツァルトとザルツブルグ」「モーツァルト書簡全
集(既刊五巻)」「モーツァルト大事典」等、ルソー、モ
ーツァルトに関するものなど、多数がある。

本年度卒業生余話二題

(父母と教師の会会報「石神井」八十一号(本年三月十一日刊)から)

大工さんの卵、朝倉剣さん現場に立つ

一足先に社会に踏み出す大工さんの卵がいる。朝倉剣さんは清瀬の工務店に入
社し、道具の使い方から覚えていく。

したたかに自分なりの挑戦と自分なりの選択。彼の旅立ちにはNHK「青春探検」
四月十日で紹介される。

a nスカラシップ奨学生に 水越晶美さん合格

秋に募集があった学生援護会(株)による「a nスカラシップ奨学生」選考(十
五名枠)には全国から九二六名の応募があり、今回その最終選考結果が通知され、
水越晶美さん(三△)が選ばれた。この奨学制度は高校時代の「精一杯頑張ったこ
と」「この経験は誰にでも負けない」という体験論文で審査され、大学在学中奨学
金が給付される。水越さんの論文のテーマは自身のボランティア体験をまとめた
「中国帰国者の援助活動に関わって」。水越さんは石神井高校でもバトミントン部
一年からは柔道部体育祭などの活動を熱心にやり、亜細亜大学法学部に指定校推
薦合格を決めている。二重の喜び。

ここにいます。ハワイの現地法人社長の土肥君
(昭和三十三年卒)も国際社会の中で頑張つて
います。
(構成・文責 高橋 一夫)



関口部長、山田部長、村松副社長、高橋

第5回

東京校歌祭

ぜひご参加ください。

平成9年

9月20日(土)

日比谷公会堂において

問い合わせ先:

電話 03-5216-7346

板谷 方彦 (27回)

東京校歌祭

校歌祭へ!

田村 典夫(中学二回)

校歌祭!旧制中学二回生としては、かけがえない思い出の校歌である!思えば太平洋戦争の真只中に、胸を張り声かすれるまで歌ったこの崇高な石中校歌は、学徒勤労動員の歌と共に忘れ得ぬ歌です。大日比谷公会堂で再び共に歌う機会を得た幸せ!歌を唱うはスポーツと一心同体、健康と美の世界です。旧制中学も新制高校も心は一つ、手を繋ぎ、大東京に、世界の空へ唱い続けましょう。声高らかに!より良いきずなを作る為。
(校歌祭参加実行委員長)

校歌祭に寄せて

山口 忠彦(十四回)

「緑なす、こゝよ武蔵野...」晩秋の日比谷公園に響き渡れと一年ぶりに歌った我が母校の校歌である。

第四回東京校歌祭。石神井としては二回目、私自身も二回目の参加である。石神井からの参加者は今回、二十四名であったが、その中にはもちろん旧制中学卒業の先輩方もいらつしやつて、中学時代の校歌も披露された。御一緒に歌わせていただいたが、リズムのとおり方が変わっていて、一発で歌うにはむずかしかったが良い曲である。むずかしいと言えは、新制高校の校歌もむずかしい方の部類だろう。春

夏の高校野球の折にいろいろな高校の校歌を耳にするが、いつも感じるのはいい曲ではあつても、殆どと言つていいほど四拍子の曲で、男声の合唱、それも斉唱が多いということだろう。男女共学が始めて、女子のマナージャーも多いと聞くのに、何故かなと思つてもいた。それはともかく、それに比べると、石神井の校歌は変わつていゝるし、欲張つてもいる。つくづくそう思う。四拍



子のユニゾンあり、ワルツあり、声のハーモニーあり、転調あり、しかも始めと終りの方ではテンポが違ふ。とにかく変化に富んでいる。「これ校歌?」と質問したくなるような曲である。「ワルツ」というのはね、三拍子ではなく二拍子系のリズムなんだよ」と教えて下さつた、作曲者の故渡部 井崎和雄先生のありし日が偲ばれる。詩もいいし、むずかしいけどいい曲だなと思つている。

日比谷公会堂と言えは伝統のある音楽の殿堂である。そこでそれぞれの校歌を披露し合うことは意義深いことだと思ふ。それを機会に同窓の志と旧交を温め合うのも楽しいし、世代の違う者同士が校歌を通じて一体感を持つことも意義深い。また、今はまだそこまではないようだが、違う学校の人々とも交流の輪が広がれば、またそれも楽しいことだと思ふ。

しかし又一方では、こんな機会でもなければほとんど歌うことのないこの校歌とはいつたい何かと考える時、校歌祭の持つ意味もまた違つたものに思えてくる。校歌は在校生にとつてはその学校の学生であるという自覚と一体感を実感する為のものだと思ふが、卒業生にとつてはどんなものか。生きとし生きたきた自分の人生のよすがのようなものだと私は考える。道標だと言ふ人も、踏絵だと言ふ人も

東京校歌祭あれこれ

平成五年、東京都旧制中学校校歌祭としてはじまつた校歌祭は平成八年の第四回から東京都の後援を受けることになりました。旧制府立一中から我が十四中までの各校と市立、私立等の七校計二十一校が参加しました。立川高校府立二中などは二百五十人以上の動員をかけた大きな盛り上がりです。

校歌祭翌日の「読売」「毎日」「産経」の各紙は、全国版に写真入りで紹介していますが、今年は何んとわが石神井高校のステーション写真が「毎日」の紙面を飾りました。平成八年十一月五日(火)付朝刊社会面をチェックしてください。

募 集

○校歌祭スタッフ
○「きずな」編集スタッフ
待遇 無給・無手当・不規則労働
連絡先 高橋(二〇回)・板谷(二七回)

印刷・製本の用命は...

株式会社 文明社

代表取締役 石川 和寿

新宿営業所 東京都新宿区榎町七九番地 千原
及工場 電話(03)333-0311
本社 電話(03)333-0311
FAX(03)333-0311
東京中野区若宮三三番地 電話(03)333-1111

いるかも知れない。単なる青春の思い出かもしれないが、自分があの頃とどこがどう変わったのか変わつていないのか。これからまたどう生きていくのか。そんなことを考えながら仲間はもちろん、先輩、後輩と声を合わせてまた次回も思いっきり歌つてみるのも一興かなと思ふ。

八方尾根に「石神井ケルン再建」 石神井の名で社会的責任を果たす

野中 雄介(十二回)

工事に参加したOB・OGは

計四十七名

石神井高校山岳部OB会が昭和三十八年に八方尾根の八方山(標高二千〇〇〇)に建設した「石神井ケルン」は、多くの登山者が白馬三山、五龍、鹿島槍などの眺望に魅せられて休憩する場所として、積雪期には冬山の安全を守る「道標」として重要な役割を長年にわたり果たしてきました。

しかしながら建設当時に物資、人員不足の中を強行した工事だっただけに三十年間の風雪には流石に耐えられず、小手先の修理ではいつ崩壊するかもしれない危険があるほど老朽化が進んでしまいました。

広く「石神井ケルン」として知られ、山の安全に欠かせない「道標」として存在感のあるケルンだけに石神井の社会的責任もあります。

そこで、このケルンの惨状を憂えた石神井のOBのシルバーパーワー(ほとんど)が中高年です(が)結集して昨年八月に「石神井ケルン再建」という平成の大事業を成し遂げました。

黒菱山荘に山の唄が流れる

暖かい昼食の出前に感激!

工期は八月十一日から十四日まで、工事資金

を寄付いただいた方は計四十八名集まった浄財は計百七万円強、工事に参加した人員は四十七名(中高年のパワー不足を補うためジュニア軍団も参加)。

セメント(総量一ト、一回に二十キロ、四十キロを担ぎました)、水、資材などは人力で標高二千〇〇〇地点まで運び込みましたが、写真でもお分かりのように、われわれの異様な格好は多くの登山者を驚かせるには充分過ぎるほどでした。

工事は天候に恵まれ順調に進み、予定日前に竣工するという手際の良さで、最後に黒崎先生が銘酒大雪溪(金箔入り)をケルンの天辺から浴びせ全員乾杯して作業を終了することができました。(黒崎先生寄稿、十一ページ下段)

工事の間、全員が黒菱山荘に泊まり込んでケルン再建に従事したわけですが、この大部隊の三度の食事は石神井OGが日頃の腕を存分に発揮しました。

中でも標高二千〇〇〇の工事現場にOGによって運ばれた暖かい昼食は重労働の疲れをいやし好評でした。(昼食時の缶ビールは絶品)

また夕餉後の酒盛りでは昔懐かしい山の唄のメドレーが飛び出し、黒菱山荘全盛時を彷彿とさせました。(ケルン同様老朽化しているとはいえない山荘は健在、快適でした。)

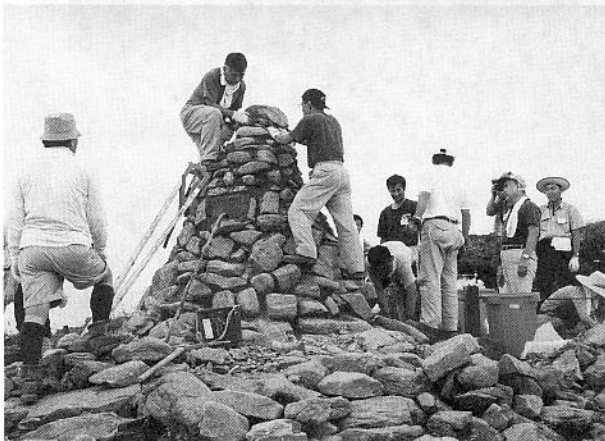
再建した「新生石神井ケルン」はその後のOB連の勉強の成果を發揮して半永久的な堅牢さを誇っています。この勇姿は多くのOB・OGの皆さんに是非見ていただきたいものです。

八方尾根は春夏秋冬いつ訪れても素晴らしい眺望、澄んだ空気を堪能することができます。八方尾根でケルンが待っていますよ!

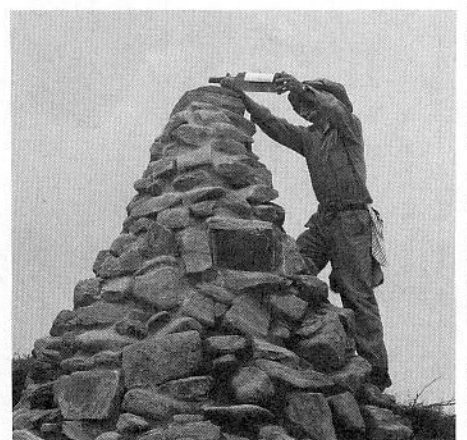
ツルハシ、脚立、長ポール、ポリバケツ、ブルーシートなどを背負った怪奇な出で立ちがハイカーの目を「点」に...



セメント荷揚げ、石集め、石洗い、水汲みなどに忙しい工事現場



銘酒大雪溪でケルン完成を祝う黒崎先生



十三日午後、ケルン再建完了の記念撮影

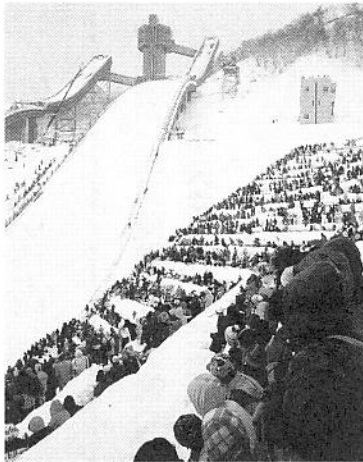


神戸学院大学法学部 教授

法学博士 渡辺修 (昭和四十七年卒)

大学 丁六五二二 神戸市西区伊川谷町有瀬五一八
電話 078(974)1551 FAX 078(976)3702

黒菱山荘委員会より



山荘委員の面々↑
←オリンピック会場予定の
白馬ジャンプ台



黒菱山荘より

黒菱山荘は、長野県白馬村の八方尾根に、三十五年以上も建っている歴史ある山荘です。みなさんもご存じのように、今年はプレオリンピックが開催され大いにぎわった場所です。冬のスキーはもちろん、春・秋にかけての登山や散策にと、最高のロケーションにある山荘からのお知らせです。

所在 長野県北安曇郡白馬村黒菱
標高 約一五〇〇ft
建築 一九六一年(千賀氏(六期)設計)
電話 0261(72)6546

山荘の利用方法について

山荘の管理は黒菱山荘委員会が行っております。委員会では利用について以下のように定めておりますので、ご理解のうえ山荘を利用して下さい。

- 資格 石神井高生(ただし保護者同伴)・PT
- A会員・同窓会員・教員・その同伴者
- 宿泊費 同窓会員 学生二〇〇円、社会人一四〇〇円、会員外二〇〇円増し
- ※ただし冬季は暖房費用として二〇〇円いただきます。

期間 基本的には制限しませんが、山荘に不慣れな方はまず左記受付に連絡して下さい。

申込み 事前に東京受付03(5985)7109(二十六期佐藤賢二)へ連絡して下さい。その際利用者氏名、利用者数、利用

機関等必要事項を伝えて下さい。利用費用の振り込み先等、詳細をお知らせいたします。

年間を通して、山の醍醐味を味わうことが出来る山荘ですが、一九八五年以降高校生の利用がなくなつてからは、主に卒業生及びその同伴者や父母と教師の会の利用となつております。都会とは違つた山荘の魅力に取りつかれている諸氏も多数います。委員会としては多くの方に山荘を利用していただくための活動を続けていますが、学生の協力無しでは山荘の維持に限界があります。是非、今年度大学・専門学校等入学が決まつた、山好き・スキー好きな君！一緒に山荘の運営をしてみませんか。連絡を待つて下さい。体育科山下先生(副委員長)まで申し出て下さい。

黒菱山荘委員会の活動

一昨年に発足した黒菱山荘委員会ですが、山荘の維持・管理及び高校での広報活動等を行なつています。毎月第一土曜日を基本とした定例会や春・秋の準備会(夏・冬に向けての山荘の準備)そして昨年は、夏休みに高校生対象の唐松岳登山ツアーを行ないました。委員会としても少しずつですが、軌道にのつてきています。また、昨年度はベランダや台所まわり等の改修工事を行ないました。父母と教師の会からは改修のためにバザーを開いていただき、多額の寄付金をいただきました。

黒菱山荘委員会では今後も山荘をより良い形で維持していけるよう努力をしていますが、ご助言等ありましたら下記委員まで、ご連絡下さい。

ケルンのこと

黒崎 峻(旧職員)

三十年も経過しますと、当時ケルンを積んだ若者達も殆ど五十才を過ぎました。三十キロの背負子を背にしますと、気持ち力が張り切つても、呼吸が乱れ、足どりが怪しくなるのも仕方ありません。そこで二世諸君の活躍となりました。

親父おふくろ達の昔の気持ちを、そのまま現在のものとして、何のわだかまりもなく、親子の共同作業に励んでくれました。息子やその仲間(石神井卒他)はセメントの荷上げ、娘達は水汲み石運び、奥方達はOGと共に食事の支度と弁当の運搬等々、思いもかけぬ協力がありました。六十才代のOBは車を利用して山荘と白馬町間の物資調達運搬、五十才、四十才代は、現地でのケルンの積上げにと、すっかり若返つて清々しい汗を流していました。

修復工事の計画・準備・実施を中心となつて推進してくれた十期生、そして、その先輩後輩が、ごく自然に自主的に作業を楽しんでいたことは、実に驚きでした。そして、長島先生夫妻、父母と教師の会の役員の方も馳せ参じてくれたのです。

石神井高校に対して、卒業生は勿論、その家族や関係者までが深い愛着を持っていることに、改めて感心しました。石神井高校の魅力は、在学中より卒業してから一層増すようです。そんな母校を持つ諸氏は幸せです。

会長 千賀可一 Tel 03(3394)6661

〒一六七 杉並区今川四の八の一

広報 泉水裕一 Tel 03(3385)8996

〒一六五 中野区沼袋四の三五の三

同期会報告

中学第二回生同期会を開催、橋本先生を囲んで談話

第一回生同期会幹事 野々村進

私ども中学二回卒業生は、去る十月十八日、「あおしま青山店にて、第八回同期会を開催致しました。

旧友五十名が出席、橋本正一先生(C組担任、体育を担当、岐阜大学教授などを)歴任が、今回も岐阜から遠路駆けつけてくださり、八十四歳とはとても思えない元氣矍鑠たるお姿を見せて頂きました。

始めに、高橋(旧姓：井口)同窓会長より、母



橋本先生(2列目左より5人目)を囲んで

校の近況についていろいろと報告があり、次いで橋本先生から『自分は四年後の二十一世紀には米寿を迎える齢となっているが、常々あと五年は生きるとの目標を心にかざしている。こうして、元氣な諸君と会っていると、この目標が何年も更新されて、卒寿をも越えられるのではないかと心境になっている。毎度のお招きに心から感謝している。これからお互いに頑張っている』との誠に心強い挨拶を頂き、先生を囲んで、歓談の輪を広げました。

私たちは、昭和十六年四月、旧青山師範北青山の校舎に仮住いしていた府立第十四中学校に入学、その年の十二月太平洋戦争が勃発、よく十七年待望の石神井新校舎に移転、それから三年弱の短い期間ではありましたが、武蔵野の静かな環境のもと、課業に取り組みることができました。その後戦局が緊迫の度を加えるに従い、三年生の後半から板橋の陸軍造兵廠に勤労動員され、昼夜二交替の作業に従事しました。そして終戦を数ヶ月後に控えた二十年三月二十八日、動員先から石神井に戻り、一回生の五年生と合同の卒業式が行われ、私ども二回生は、旧制中学五学年制度のもとに、全員が四年生で卒業したわけでありませう。

この間、二十名近くの仲間が卒業を待たずに、海軍の甲種予科練や海兵、陸士など軍関係の学校に入隊、卒業後は旧制高校や大学予科、高専などに進学した仲間も多く、また空襲の激化で地方に転出疎開して行った旧友もおりました。現在の平和な時代にはとても考えられないような極度に逼迫した非常事態の中で、誠にあわただしく中学生生活を了えました。この様に、戦時下の誠に恵まれない環境、短い

クラス会、同期会には是非ご利用下さい!

石神井倶楽部 in 『あおしま青山店』

(土日貸切可、55坪個室有、100名様迄) ☎03-3403-3461



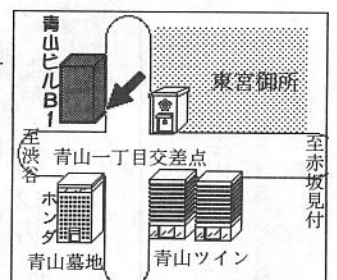
黒菱山荘と応援します

旧友が集えば
知恵も力も
湧いてくる
恩師を囲んで
楽しいパーティ

- ◎レストラン事業部(本部03-3319-1121FAX1124)
直営8店、海外パラオ1店、各店共、石神井生大歓迎。
カラオケ設置店(日本橋本店、青山店、赤坂店)
結婚披露宴、二次会等勉強致します。ご相談下さい。
- ◎ケータリング事業部 (03-3388-8558)
☎1本でお届けします。美味しいコシヒカリ弁当や
出張料理を担当。記念式典、披露宴、叙勲、竣工式
謝恩会、冠婚葬祭、色々お役に立ちます。

◎通販事業部フリーダイヤル(0120-710-804)
レストランの味を何時でも全国へ保冷宅配いたします
中元、歳暮、おせち等お気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社 青島レストラングループ
社長 城 和裕(高校12回卒)



授業時間などの悪条件下にも拘わらず、先生方の『新設校として、立派な校風と伝統を創って行こう』との熱心な指導と在校生の自覚もあって、内容的には可なり濃度が濃く、充実した四年間ではなかったかと、大方の出席者は往事を顧みておりました。

私も全く同感で、卒業後のこの半世紀、山あり谷あり、幾多の風雪を乗り越えて、それぞれの人生を切り拓いて来られたのも、この中学時代のお陰と心から感謝している次第です。

同期生は、何れも六十七、六十八才、程なく古希を迎える齢となり、殆どが程度の差こそあれ、色々の持病を抱えておりますが、『是非とも、橋本先生を見習ってお互いに励まし合って、心身共に少しでも健康で、この高齢化社会を生き抜いて行こう』と、健康談議やら石神井の思い出話などに花を咲かせ、互いに元気で再会を約して散会しました。

なお今後、同期会は原則として隔年ごとに開催。世話役幹事は各組幹事の持ち回りで担当運営していく予定としております。末筆ですが、母校の発展と関係者皆様のご健勝を祈ります。

高校三回(昭和二十六年卒)

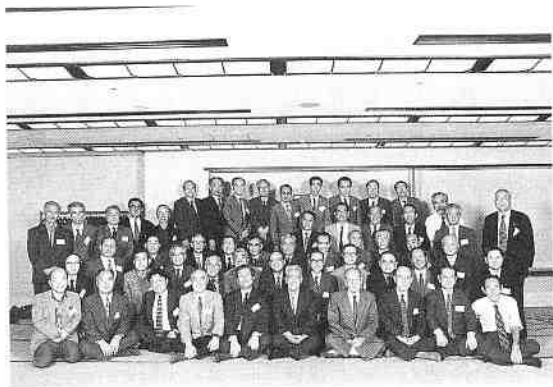
佐藤 健 (三回)

昨年十月五日、「新宿モノリス二五」において「石神井高校恩師を囲む会」と称した高校三回生(昭和二十六年卒)の同期会を開催しました。当日は卒業時に担任だった手崎政男、寺島政一両先生をお招きし(寺沢、吉田先生は物故、石木先生は欠席)、参加者五十四名を得て、盛大な

会合となりました。

我々は終戦の年(昭和二十年)に旧制中学に入學、六年後に新制高校を卒業したわけで、それだけに懐かしさもひとしおなのですが、卒業以来相集う機会も殆どなく、多くの人が四十五年ぶりの再会でありました。互いに「よおっ！年をとったな」と言い合いながらも、会えばたちまち好奇心に満ちあふれた、あの頃の中学生、高校生に戻り、よもやま話に花が咲いたのであります。最後に、当時の校歌を斉唱することになったとき、手崎先生から「一番から歌え」と命令があり、「粹然と東亜のみなか鎮もれる 不二の高峯は紺碧の……」と声を張り上げ、感激裡に散会となりました。

今回は、いろいろな制約のある中で約百名の方に案内して、これだけの人数の参加がありました。皆さんから、早い時期にまた開催してくれと要望されております。そのためにも連絡の輪を広げていきたいと思っております。消息をお待ちしております。

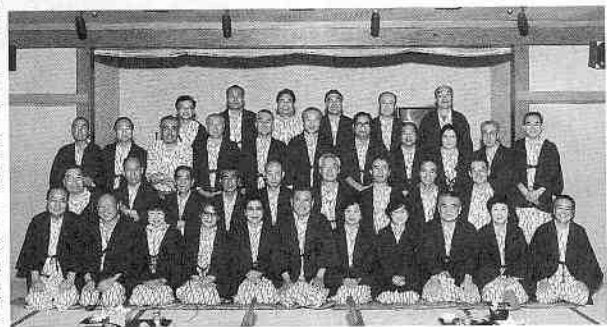


幹事世話人 佐藤 健

〒202 保谷市泉町6-2-20 Tel 0424-22-8603

盛り上がった高校八期の同期会

森雅夫(八回)



石神井高校エイト会 於・箱根パークス吉野

この三月十五日、高校八期が還暦を記念して初めて一泊で同期会を開催した。

当日の箱根湯本は、肌寒く、小雨も降っていたが、四十人近い人が集まった。そろそろ六十歳に届く年齢にもかかわらず、宴会で大騒ぎ。そのあとが当然の二次会。部屋に戻って、雑談する人、カラオケに足をのぼす人、囲碁に興じる人、麻雀でくつろぐ人と、夜遅くまで楽しい時を過ごした。

この時はやはり、白髪頭が増えてきて、みんな高校時代にあと戻り。会社にいる時は、部下が頭を下げてすれ違うほどのエライ人も、みんな呼び捨てで話せるところがいい。なにせ名門石神井高校の同期なのだ。会長、社長もわんさかいる。ほとんどの同期会がそうであるように、これまでは都内の会場を借りて二時間ほどでおひらき。そのあといくつかのグループに別れて二次会とい

うのが、お決まりのコース。

今度ばかりは、このころ横になってしゃべってもいいし、時間を気にすることもない。気がついたら午前三時を回っていた、という程夢中で宴会後のひとときを過ごした。

翌日、ゴルフ組は芦の湖近くで、寒さにめげず、点数にこだわらず、ゴルフに興じた。これほど楽しく過ごせるのなら、たまには一泊して同期会を楽しむ方がいいという声もちらほら。なにせ大部分の人は時間にゆとりができてきているのだから。

大阪から駆けつけた本郷紗智子は、記念撮影の直後となってしまったので、大変残念なことに写真に映っていない。

みんな再会を楽しみに、別れを惜しんだことはいくらでもない。

十三回生の卒業三十五周年

記念同期会

野中 雄介 (十三回)

昭和三十六年に卒業した十三回生は、卒業二十周年を期に同期会を開催し、以後五年目毎に開催し、毎回百二十人を越す盛況です。

卒業三十五周年の昨年は、七月二十日に十二回の城 和裕さん(同窓会副会長)が経営するレストラン「あおしま」青山店で開催し、夕方五時まで延々と歓談を楽しみました。恩師は、東先生、春日先生、黒崎先生、小池先生、清水先生、田中先生、山下先生が出席されました。

出席した同期生は九十名ぐらいいました。出席者の詳細が不明なのは、毎回のことで、はつき

りと人数を確認できないほどごった返すのが十三回生の同期会の特徴です。(九十人という数は、会費の集計から割り出したものです。



高校二十九回同期会

野村(壇浦)弘子(二十九回)

私たちが初めて同期会を開いたのは、卒業して十四年後の平成三年四月のことでした。しかしこの時は十分な準備ができず、東京近辺の人しか案内状を送れませんでした。

そこで改めて翌年十一月に第二回。以後二年毎に開催することを出席者の拳手で決定し、次第に同期会としての体裁が整ってきました。六年六月第三回、八年八月第四回、毎回数十名の生徒と数名の先生方に出席していただき、食べて飲んでお喋り三昧の楽しい時を過ごしていま

す。

会の準備は当日の二ヶ月以上前から始まります。会場の予約、案内状の作成、送付。宛先不明で戻って来ようものなら、実家や親しかった人などに手当たり次第連絡を取ってほとんど行方を突き止めてしまいます。そして返信ハガキを見ながら住所を確認して新しい名簿を作り、出席者数に一喜一憂しつつ細かい打ち合わせに余念がありません。

名札も作ります。読売新聞にも載せてもらいました。(朝日ははずれました)幹事宅の電話料金は一気に跳ね上がり、頭の中は「同期会の三文字がぐるぐる回っています。」

いざ、会の当日、幹事は会費を受け取り、料理の減り具合に気を配る程度で、あとはのんびりしています。何の演出もなしで、二十九回生は勝手に盛り上がっています。

その盛り上がりの一因と自負しているのが「近況報告書」返信ハガキの近況欄をもとに作成した物で、「子供が生まれた」「仕事が変わった」「引越した」などの個人情報満載第三回から作っていますが、今回はB4版三枚にも及ぶ傑作となりました。欠席者も所定の金額を振り込めば郵送してもらえらることになっているので、世界中どこにいても同期生の情勢が手に取るようにわかる!という自慢の一品です。

また、今回初の試みとして、「昼夜二部制」を採用してみました。第一部として午後の早い時間にお茶とケーキでお喋りの会を開いたのです。子供がまだ小さかったり、家が遠かったりで夜の外出が難しい女性たちに好評でした。そして夜は同じ会場で第二部として恒例の食べて飲んでドンチャン騒ぎの会。こちらは男性が多かつ

たのですが、昼夜とも出席してくれた人も多数いました。もちろん幹事は昼夜続けて「二粒で二度おいしい」同期会を味わいました。

私たちは、幹事を持ち回りにしていません。持ち回りにすれば平等には違いないのですが、実際にこれだけのことを毎回一からやっていたら却って大変だということに気がきます。同じメンバーでやっていると、個性と能力に応じてそれぞれの持ち場も自然と決まり、バリバリ実力発揮できるし問題点もよく見えてきます。

話に花が咲き、爆笑の渦巻く会場を眺めながら受付でささやかに乾杯すると、それまでの苦労が全身から抜けて蒸発していくようです。やってよかった、裏方仕事。口では「大変だ、大変だ」と言いながら、一番いいところを味わい、一番楽しんでるのは実は幹事達かもしれません。信じて任せてくれて



皆さん、どうもありがとうございます。とうございませう。というわけで、次回は平成十年に開催予定

です。同期の皆さん、お誘い合わせの上ぜひご出席下さい。そして、「心は十八才」の時を共に過こしましょう。

青島パラオ友の会へのお誘い

城 和裕(十二回)



日本の真南、東経一二五度北緯五七度七度位置する独立国パラオは、沢山のマツシユルム形の島々と、透明度七〇メートルと言われる素晴らしい海に囲まれたリゾートです。最近JAしも定期的に名士屋から直行便を出すようになり、四時間ぐらいで天国に近い島に到着できるようになりました。ダイビングや釣り、白浜でのシュノーケリングが何方にも安全に楽しめます。とてもリピーターの多い観光地です。時差がないため、老若男女を問わず家族連れでも疲れることがありません。恩師、東 土先生ご夫妻も一度ご来島いただき大変お気に召して頂きました。私どものパラオ店も今年で十一年目になり皆様のお出でをお待ちしております。ご興味のある方は、下記の住所にお葉書を下さい。『青島パラオ友の会』の皆さんは、現在百名ほどいらつしやう、年間を通じて情報交換をしたり、グループ旅行を企画したり、楽しい会合を開催したりしております。

お問い合わせ先 03(33367)1224
〒一六四 中野区上高田一の十四の七

(株)青島本部事務所 城 宛て

会員便り

近況

草野 昌一 (一回)

ロックを中心とした音楽関係の仕事をしてい
るせいか、皆に若い若いとおだてられながらよ
わいを重ね、孫たちに囲まれてニコニコしてい
るこの頃です。

久しく同期会もなく、先日偶然手にした十数
年前の同期生会の写真を懐かしながめていた
日に寄稿のお願いの文書がきたので、その偶然
性にびっくりしました。

小生は相変わらず仕事にかまけて国内外を飛
び回る一方で、腕前は少しも上がらぬゴルフ
ボールを追いかける日々を送ってスコブル元氣
にしております。

(株式会社シンコー・ミュージック)
e-mail: s-kusano-m@shinko-music.co.jp

四年間の星下線生活

清水 重亮 (四回)

現在マリンクロットメディカル(米国企業)
の日本での経営を担当、病院の手術室、集中治
療室等に対し患者の呼吸管理、体温管理用器具
器械を提供するとともに、山之内製薬による血
管造影剤オプトレイも販売しています。大学を
出た時は本格的な商業用としては、第一世代の
コンピュータを日本の大企業に提供すること
を通じ、日本の産業界に少なからず貢献させて

いただき、今、ビジネススマンとしての最後を、人
命救助という極めて社会的意義の高いサービ
ス業に携わらせていただけることに心から感謝し
ている次第です。

振り返ると、私は都立石神井高校併設中学校
卒業で、高校一年になる時に転校をしました。学
制が旧制から新制に変わった時で、中学校では
三年間後輩なし。高校一年生まで四年間最下級
生を務めた、日本の教育史に残る(?)べき後
にも先にも例をみない経験をした一人。その四年
間、蹴球部員(サッカー)時は戦争の終わった翌
年からという、すべてがないないづくめの四年
間、部室の掃除、臭いユニフォームの洗濯、やぶ
れたボールの修繕、ボール拾い係等が主で、ボー
ルにさわられたのは早朝霜柱が立ったなか素足で
…。今思えば、この四年間は私の身体に「ひと様
に対するホスピタリティ」を体得させてくれ、
よって私の今在りきと、その間お世話になっ
た諸先輩に心から感謝している昨今です。どう
か皆さん健康第一に、当社製品の世話にならな
いよう願っています。

八ヶ岳原村便り

岩田英麿 (十三回)
愛子 (十三回)

八ヶ岳の麓、原村に、ペンションを開業して十
七年が経ちました。中央道の小淵沢から唐松林
を八ヶ岳に向かってのびている道路を車で走る
と山桜やこぶしの花を見ながら二十分で原村に
着きます。五月の唐松の芽吹き、六月の真っ赤な
レンゲツツジとすずらんの花、そして、たらの芽
やわらび取りを楽しんでいます。この頃より山



ペンションの宿泊などのお問い合わせは
岩田ペンション 0266-74-2604 までどうぞ。
※ 同窓生の割引をしています。

は雪がとけ、登山やハイキングができるよう
になります。夏は高原の天然のクーラーが疲れを
いやしてくれくれます。夜空の天体観測に気合いが
入っています。九月、きのこ狩りの秋、目がきの
こになっていきます。十月末の黄金色に輝く唐松
林は必見の価値があります。冬は温泉、スキー三
味の生活です。来年の冬はオリンピックもあり、
又この地域の七年に一度の御柱祭があり、誰で
も参加できるので、柱を地酒のみながらのど
かに引いていくのを楽しみにしています。この
二年間、休業し皆様にご迷惑をお掛けしました
が、四月より再開していますのでぜひ又お出掛
け下さい。一緒に楽しい体験を試してみませ
んか。

音楽の道を歩み続けて

青木 (御供) 多恵子 (十五回)

石神井高校卒業後、音楽大学に進み、その後結
婚し、一人目を出産し、その後芸大に入学し、二
女が生まれる一ヶ月前が大学の卒業式と、少々

他の方と異なる歩き方をしてみました。

子育てをしながらの大学生活は、もちろん、
実家の助けがあつてのこと、大変恵まれてい
ました。一度社会に出てから、いえ、家庭に入っ
てからの再度の大学生活は、はじめのとは異な
り、恵まれた環境を貴重に感じ、勉強すること
の喜びを感じずにはいられませんでした。

現在の大学生も、勉強をしたくないのなら、
一度社会に出て、本当に必要性を感じ勉強した
くなつたら再度挑戦してみると、新鮮に感じ、
成果もあがるような気がします。(余計なこと
を書いてしまいました。)

その後も、子育てを楽しみながら、音楽(声
楽)の道を歩み続けております。主に、スペイ
ン、ウィーンで勉強し、演奏をしてきました。ス



ロバキアでのCD録音も実現しました。これか
ら、自分を信じ、雑音にとられず、マイペー
スで音楽活動をしてゆこうと思つてます。活動
する上で、常に応援して下さい、石神井時代の
友人をはじめとして、「真の友情」をかみしめる
今日この頃です。今でも自分の出身校として、
石神井高校は私の誇りです。

石神井高校同窓会ホームページオープン
インターネット上に、同窓会のホームページ
を開設いたしました。ぜひご覧下さい。
<http://www.jhs.co.jp/syakuji>

お便り

松浦(関) 統子(十五回)

家族にも身近にも高校生がいない年齢になり、高等学校での生活を話題にすることも少なくなりました。しかし、私の妹、私の次男も同窓生です。他のご家庭よりも石神井との縁は多いのかもしれない。そして、夏の高校野球の地方予選の時期になれば新聞の中から「石神井高校の文字」を捜す習慣は今だに続いています。

私も十五回生はすでに五十路を過ぎ、娘や息子の結婚や孫の誕生の嬉しい知らせが話題に乗るようになりました。反面、病気や死という悲しい知らせを受ける年齢にもなりました。昨年はいつも同窓会の幹事を誠意をもって下さっていた川村(増子)さんの突然の訃報には驚き、悲しい思いをいたしました。時の流れを実感する日頃です。

社会的に見てみますと二十代・三十代・四十代と男女共に一生懸命に働き、生活してきて、今、ちよつとその速度を遅くしたところでしょうか。その歩みの中でこれからの人生を見つめ捜している時期だと思えます。そして人生をどのように送っていくかということが大切なのではないのでしょうか。クラス会で会う時は、いい顔をしてほしいものです。

高校三年間、先生方から指導いただいたお話も、もう具体的には忘れてしまいました。あの武蔵野ののんびりして朴訥な校風で培われた感性が導いていくってくれるのではないかと感じています。

観劇への誘い

鈴見健人(二十回)

二十回卒業の仲間、石崎収君(芸名花王おさむ・東京ポードビルミーに所属していた。現在はフリー)がいた関係で、彼の公演を観劇し、その後、飲み会を開き、無駄話をすると言ふ集まりが十年来続いています。主な参加者は、石崎陽子、斉藤友子、近藤節子、石川洋子(すべて旧姓)、桂純二、橋本恭一、鐘ヶ江晴秀、越智文夫など、忙しい中で年に一・二度の集まりは、且、このストレス解消になるだけではなく、仲間の活躍を見ることにより、リストラの風に向かう元氣も出てくる様です。私はおさむの公演を観劇したのを機会に、縁のなかつた芝居の面白さに目覚めて、暇のある時には、芝居を観劇するという趣味が一つ増えました。芝居は、テレビ・ビデオとは違うライブ感があり、高いお金を払う価値はあると思えます。ストレスの溜まっている方は連絡下さい。一度おさむの芝居を見て酒でも飲みながら三十年前の昔話でもすれば、日頃のウサも晴れると思えますよ。

連絡先 TEL 03(3662)0661 鈴見

「ヤシ馬」的研究精神で

渡辺修(二十四回)

長男が高二になった。自分が高二のときと比べ、昼休みに武蔵関駅前でメシを食い関公園で散歩していた頃、学園祭にクラス作成映画を上映したのも高二のとき。担任で生物担当の水谷先生に人生論めいた議論の相手になつてもらつたのもこの頃か。東北の修学旅行で葛温泉

に泊まり、宿の人にマムシ酒を飲ませてもらったこと、受験勉強に打ち込んだ高二のときなど思い出がよみがえる。なつかしく思う高校時代があることがありがたい。

今は、関西の私学の法学部で刑事訴訟法を教えている。高校、大学と思ひ出多かつた分、ゼミ生には卒業後も「いい学生時代だった」と思ひ返してもらえるようにと考えている。写真は、警察官になる今年の卒業生と山梨県上九のオウム真理教団施設跡を見学したときのもの。東京地裁のオウム事件も、おりおり傍聴する。「ヤシ馬的研究精神(?)」の基礎も石神井高校時代に培つた。



ゼミの学生と(中央筆者) 上九のオウム真理教団施設跡にて

同期の吉澤功君が関西にいる。同君が企画に関わるミニ・コンサートのメンバーに加わつて数年になる。阪神大震災で会場だった神戸・元町の喫茶店がつぶれ、再建されるまで一年あまり。今年から再開。ふた月に一度中年くさくなつた同君の味のある解説を聞きつつ、格調高い音楽を楽しんでいる。しばらく母校に足を運んでいないが、こんどオウム裁判を傍聴した後にも寄ろう。在校生の発展を期待しつつ、筆を置く。(昭和四十七年卒。現在、神戸学院大学法学部教授、刑事訴訟法専攻)

石神井育ちの心意気

近澤 洋平(三十三回)

今年もまた春がやつてきました。五十一名のフレッシュマンが元氣いっぱい挨拶をしてください。「医療に貢献したい」「病気で苦しんでいる患者さんのお役に立ちたい」という志を持って入社してきた彼らの目は、キラキラと輝いています。



私は現在製薬会社で、営業マンに対する研修を担当しています。医薬品という生命関連商品を取り扱う職種のため、新入社員に対して医学・薬学教育はもちろん、態度・マナー・倫理・法規など五ヶ月間にも及ぶ集合研修を実施しなければなりません。

日経新聞によると、今年の新入社員は「ボディーシャンプー型」と命名されているようです。「コツコツ使うせつけん型」とは違つたので、最初はなじめないが、肌触りが柔らかく、泡立ち(適応性)が良い。それぞれの香り(個性)も良い」ということですが、なるほど彼らは野武士タイプではなく、素直であり、自分らしさを大切にしている傾向があります。

先生も生徒も野武士の集まりだった石神井高校で育つた私にとっては少し物足りない気もしますが、あの時に培われた心意気で人材育成に努めています。「歴史ってこんなに楽しかったのか」と心を奪われた日本史の太刀川先生、「まるで魔法のようだ」と心をときめかせた化学の

星野先生のように…。

文学座へどうぞ

松本 真由美 (三十五回)

私は昭和五十八年卒業の松本真由美です。(旧姓・八十川)

私は今、演劇の方に携わっています。早稲田大学の演劇サークルに入り、アングラ芝居のよくなものをやっていたのですが、結構おもしろくなって…。大学四年では就職活動もしたりして進路については大分悩みましたが、最終的には内定していた旅行会社を断って、文学座の研究生になりました。そこで研修生やら準座員を経て、一応今座員として籍を置いています。現在は一児の母となり、子育てで大変なので休座していますが、また今年あたりから復帰しようと考えています。なかなかすぐには仕事を貰えないと思いますし、実際に子供がいて旅公演などには行けないので、本当に籍を置いているだけにしばらくはそうですが、定年のない仕事なので、長い目でみてがんばっていきたくと思っています。結婚前は、杉村春子さんと太地喜和子さんなどと同じ舞台上に立ち、その人柄や人間的な魅力などにも触れて、いろいろな意味ですごく勉強になりました。

年を重ね、いろいろな経験を積んで、食べていくには程遠い仕事ですが、なんとかずつとたずさわっていきたくと思っています。

もし同窓の方で、観劇が好きの方がいらっしやったら、是非文学座のお芝居を、覧になっていたいただきたいと思えます。(宣伝になります)が、年入会費二万円、一年間の芝居、本公演五

本とアトリエ公演(文学座の稽古場という小さな空間でやるお芝居)三本が観劇できる「支持会員」というシステムがありますので、お芝居の好きな方におすすりめしたいです。興味のある方はご連絡いただきたいと思えます。

電話03(3921)1172

〒一七八練馬区大塚子園町六の一の二七 八十川方
八十川真由美 文学座ではこの名前が出ています！

動物園飼育係として

高橋宏之

(三十六回ラグビー部)

読者のみなさん、こんにちは。現在、私は千葉市動物公園で飼育係をしています。此処は園内が七つのゾーンに分かれています。モンキーゾーンや動物科学館、草原ゾーンといった具合です。飼育係となつてまる九年ですが、まだまだ分からないところも多く、毎日が驚きと発見の連続で楽しく仕事をしています。今は、フラミンゴの担当です。

さて、動物園というと、一般的にレクリエーションの場と思われがちです。けれど、他にも社会教育、研究、自然保護の馬という機能も持っています。二十一世紀までで二〇〇〇日を切りましたが、動物園も大きく変わろうとしています。「環境教育」と「種の保存」。さきほどの四つの機能をもち、この二つを動物園は目指そうとしています。都会に住む人たちにとって、自然と親しむ機会が極端に減ってしまいました。ニワトリの足を四本描く人もいます。そうした人たちに少しでも動物園が「自然への扉」として貢献できるように、また、世界中で環境破壊が行われ、自

然が失われていくなか、絶滅の恐れのある動物を動物園で増やし、少しでも「種の保存」に貢献できるように、頑張りたいと思えます。

今年の四月からは夜間の大学院で教育学を専攻し、「動物園での効果的な環境教育」をテーマに、勤務後、通っています。石神井高校ラグビー部で培った「常に前進」をモットーに、石神井精神を忘れず歩んでいきます。

地震予知 そのII

城 和裕 (十二回)

樺や合歡木など樹木の電位を測定して地震の予知研究をしているアマチュアグループの話を紹介したが、昨年末の会合で又々驚くべき研究発表を八ヶ岳の天文台に勤務する串田氏から伺ったが、その観測データの記録紙の中に偶然異常な動きを発見し、数年を掛けてその原因を調査研究し大型地震発生の一週間前からその予兆が現れる事実を掴んだのである。過去のデータではほとんどの地震の発生と符合し、樹木から得たデータとも符合するのだそう。彼の話を簡単にまとめる

と、通常受信不可能な遠隔地のFM波を流星の流れる短時間だけ受信出来る装置に記録装置をセットしておいたところ、大型地震の発生した一週間前ころから記録紙のラインに大幅な異常が見られ、その数日間の形状の動きで地震の規模と方向性がわかるという。

彼の理論では地下の地震発生膨大な電気エネ

ルギーが発生すると、その地域の上空にある電離層が大きく影響を受けて電位が変化し一種の大型コンデンサー効果が発生する。電離層が変化すると通常だと突き抜けてしまつたFM波は非常に影響を受けるし、普段なら受信不可能な電波も受信可能となるのだ。地震発生前の色々と不思議な動植物や雲光などの天候の前兆現象もこの説だと理解できる。政府は膨大な予算を使って地震予知の研究を行なっているが、こういう地道な研究者の研究成果にも注目して取り上げて欲しい。当日の研究会には母校の地学の木下和子教諭にも参加して頂き、二十七期の板谷方彦君もメンバーとして同席された。

地震は防ぐ事は難しいが、数日前に予知出来れば少なくとも死亡者や負傷者の数を少なくすることは可能なのだ。政府の地震予知連の情報にはパニックや経済混乱を起すという論理で実際にはほとんど発表されていない。現在我々の予知情報はそういうことで会員しか流されていないのが実情である。私は人のたくさん集まる事業をやっている所は皆員になることを勧めたい。大地震は時間が経つと他人事のように思うのが日本人の性であるから。

尚、参考までに私が加入しているこの会の名前は「地震前兆研究会」、主催は東京女子大学の鳥山元教授で、メンバーには東京デイズニールランドや地方公務員、主婦、学校の先生、商店主等多士済々でボランティア的に研究維持されており、年会費も一万五千円程度と良心的であるし、入会希望者には会員の推薦があればよい。興味のある方は私宛に連絡を。

TEL 03(3367)1224 (FAX可)

城 和裕 宛て

無添加パンの”伝道師”

廣瀬満雄氏

(高校二十一回)

廣瀬氏は現在、西荻窪南口にあるパン製造販売の店「リスドオルミツ」の店主として、また経営状態の悪化した個人パン店の救済コンサルタントとして活躍しています。同氏の活動の経緯については今年一月に発刊された廣瀬氏二冊目の著作「ミツ流ならパン屋ほど面白くて儲かる商売はない」のまえがきを転載して説明に代えますが、そこには触れてはいないエピソードをいくつか紹介します。廣瀬氏は石神井在校時、音楽部に所属した素晴らしい声の持ち主で、「歌って踊れるパン屋」を自称しています。平成四年には自ら主催してリサイクルを開いた程ですが、今のところ超多忙のため、なかなか二回目の開催に踏み切れない様です。パン屋店主としては、自己の店の職人、依頼されて育てあげる人達に「ガン式製パントレーニング」を課し、成果をあげているということ。無添加パンを作り続け、その必要性を主張すると、既成のパン業界や大手業者からの中傷イジメがあるそうで、廣瀬氏からせて同窓生からは温かい理解を得たいという希望があり、そのため「きずな」を持って来店同窓生には一人一回、無添加パンを割引販売するそうです。

〔廣瀬氏著作はしがきから〕

「予想」(よそ)という熟語を逆さから読むと、「嘘」になります。「コンサルタント」を



同じようにして読むと、「取るさん」つまり「取るさ、雲」と読んでしまう私は異常性格者なのでしょうか？私の今までの仕事の軸を成してきた「コンサルタント」という職業は、その企業の経営上の予想(予測)をし、具体的な解決案や方法を経営者やそこで働く人々と一緒になって模索し実践するのがその職務です。もつと言いますと「嘘」になる「予想」は間違ってもできないし、その場合によっては「真」のものに「フタ」ではなく「臭いもの」(雲)をつかみ取るくらいの勇氣と腹のくくり方をしなければなりません。

二十八才の時に、父から勸まされ実家のパン屋を去った私が、まず一番最初にしたことは、「食うために」サラリーマンになったことでした。留学から帰国し、親父の小さい会社で「常務さん」と呼ばれていい気になっていた身にすれば、この食うための「サラリーマン」生活はとてつもない辛いものですが、「良い上司、気にくわない上司」に恵まれ、とてもいい勉強になったと今は思い返します。

その後自分の心がどうしてもパンの業界から

うナツメロでした。そのとき、「渡り職人」になるのではなく、「コンサルタント」になろうと思ったわけです。

名刺に「ペーカリー コンサルタント」と刷り込むのは実に簡単でした。「コンサルタント」が何であるかも知らず、まさにいい気なものです。一応人は「先生」と呼んでくれますが、本当に「先生」と呼んで下さっているのか、それとも取りあえず「先生」と呼んでいるのか、(これが重要ですが私は十五年以上かかって、ようやく最近になって本当の意味で「先生」と呼んでいただけになったようです。(と思います))

この本はまさに、私がとりあえずの「先生」から「先生、兼、パン屋のオヤジ」になるまでに得た情報経験、知恵を集大成したつもりで「極力」と言われているとか「くかもしれない」というような抽

リスドオル ミツ 廣瀬満雄氏 活動の軌跡

- 1991.4 韓国光州市 講演会
- 1991.9 注目集める移動販売 (朝刊の経済欄) 読売新聞全国版
- 1993.5 銀座アルテリーベにて「ヨーロッパの歌とパンを語る」リサイクル主催
- 1994.2 「繁盛こだわりパン屋さん」1時間日本テレビ系列「スーパーテレビ情報最前線」出演
- 1995.6 「一人一坪十万円」廣瀬満雄著 明日香出版
- 1995.6 直営店「リスドオル・ミツ」オープン
- 1995.12 フジテレビ系列年末特番「天下の商売人」出演
- 1996.4 日本テレビ ニュースプラスワン「今日の特集」出演
- 1997.2 日本テレビ「スーパーテレビ 情報最前線」出演
- 1997.2 「ミツ流ならパン屋ほど面白くて儲かる商売はない」明日香出版

この間、国外を含む数多くの講演、雑誌取材、TV出演があり、最新の著作「ミツ流なら…」は発売以来既に三万部が出るなど、廣瀬氏のエネルギッシュな活躍の様子をテレビでも多く見たいと思います。

離れることができません、海外専門にパン製造技術を教える仕事をフリーでやり始めました。そうこうしている内に、今度は国内のパン屋さんにも製造技術を教える機会を頂戴するようになったのです。

あるとき大阪難波の法善寺横町の「水かけ不動様」に立ち寄った時、偶然にも聞こえていたのが「包丁一本、サラシ巻いて」というナツメロでした。そのとき、「渡り職人」になるのではなく、「コンサルタント」になろうと思ったわけです。

名刺に「ペーカリー コンサルタント」と刷り込むのは実に簡単でした。「コンサルタント」が何であるかも知らず、まさにいい気なものです。一応人は「先生」と呼んでくれますが、本当に「先生」と呼んで下さっているのか、それとも取りあえず「先生」と呼んでいるのか、(これが重要ですが私は十五年以上かかって、ようやく最近になって本当の意味で「先生」と呼んでいただけになったようです。(と思います))

この本はまさに、私がとりあえずの「先生」から「先生、兼、パン屋のオヤジ」になるまでに得た情報経験、知恵を集大成したつもりで「極力」と言われているとか「くかもしれない」というような抽

象的にして曖昧な表現は避け、具体的、現実に書き記したつもりです。

私事で恐縮ですが、私は堀内孝雄さんの歌が大好きです。「遠くで汽笛を聞きながら」という二十世紀後半最高の名曲の中で、「自分に嘘はつくまい、人を裏切るまい」という歌詞があります。定性調査、定質調査をするおり、痴漢に間違えられながら居住地の洗濯物の調査をしたり、ホームレスの人に間違えられながらゴミ箱の中心まで手を突っ込み、ゴミの分析をすることがあります。「何でこんなことまでできるのだろうか？」と自問自答します。しかし、いつもそのときに出る答えは、自分の納得のいく調査をしよ。クライアント様の期待を裏切りたくない。そのためだったら私は雲を掴むのも平気である」というものです。

これからも私は、少なくとも「予想」屋には成りたくはありません。「汗」と「涙」と「意地」でコンサルティングとパン屋をやっていくつもりです。

鉄研OBの皆様

御免なさい

鉄研顧問 岩崎秀夫

鉄研OBの皆様には大変申し訳ないことなのですが、遂に本年四月をもちまして鉄研は休部状態に追い込まれてしまいました。最後の会長である山下太一さん(卒業すれば対等ですから、「さん」付けにします。以下同じ)ともう一人の会員である岩亀勇さんが二年間に渡って必死に会員募集をしてくれたのですが、遂に後継者に恵まれませんでした。

思えば二年前、鉄研存亡の危機にあったとき、石神井高校の文系文化部として僅かに残ってきた伝統を絶やしてはいけないと言う使命感を感じて山下太一さんが入会してくれなければ休部になるのはもつと早かったはずなのです。鉄研の歴史を遡ってみると、同じような危機は、三十三回生(今年の三年生は五十回生)の時と、四十回生の時と二回あったようです。(ちなみに、私が本校に着任して顧問になってお付き合いするようになったのは四十一回生の会長が大橋慎二さんの時からでした。)しかしその時々ではOB諸氏や顧問の努力により、見事に危機を乗り越えていらしたのに今回は「万事休す」ということになってしまいましたし訳ありません。これは山下さん、岩亀さんの責任ではなく一重に私の責任なのです。というのは、私が現三年生の五十回生をクラス担任しているのですから…。何とかわたしのクラスから後継者

を出そうとそれこそ「血の滲むような」努力をしてみました。が、刀尽き、矢折れたのです。

確かに、鉄道に興味を持つものはかなりいるようなのですが、「団体行動するのはちよつとカッターユ」というのが、ごく最近の石神井高校生気質、あるいは最近の世間一般の高校生気質なのでしょうか。周辺高校でも私の知る限りではどの高校かど忘れしてしまいましたが、鉄研が存続しているのは僅か一校のようです。そういう高校生気質の変化に加えて、社会における鉄道の占める相対的地位の低下、巨大な情報社会にさしかかった中でのミクロ的な地道な研究心への情熱の薄れ、などなど、休部の言い訳は数々あげられそうです。しかしなんといつてもこれ以上、鉄研を引っ張っていけないかった私の力量にその主因があるのは否めません。

思い出せば七年前、鉄研存続の雲行きが怪しくなったころ、時の前会長で四十三回生の高橋克佳さんが、起死回生の名案を思い付けてくれました。それは、会の魅力を出すために、合宿をしようということなのです。もちろん同好会はいまでも本校のきまりにより「合宿」はできません。そこで、青春十八切符を使って、夜行列車による車中泊なら許されるのではないかとという事を考え付けてくれたのです。当時の生活指導部も大変好意的で、文化部の活性化のために特例を設けてくれました。そうして、その年は東海道線大垣夜行で近畿へ、翌年は上越線ムーシライトで東北へ、その次は中央線諏訪夜行で信州へ、次はまた大垣夜行で近畿へと「合宿」を続けて、それには当然であります。が、ほぼ二十四時間、鉄道乗りっぱなし状態で鉄研部員につきあうというように私なりに鉄研存続の努力を続けて来た

つもりなのです。

この他にも、色々と苦しくも楽しい思い出はありますが、この『きずな』を通じて、私が鉄研のご報告を初めて鉄研OBの皆様へするのになんと鉄研終幕のお知らせをしなければならぬとは、断腸の極みであります。願わくば、OB諸氏の御子弟を本校に入学いただいたて、鉄研復興をさせていただくことを。

昭和四十一年卒業の十八回生の中野・鴻巣・三重さん以来、今年卒業の四十九回生の山下・岩亀さんまで、足掛け三十二年間延べ一〇八名の会員の皆様が青春を過ごされた鉄研でした。ただし暫くの休部にすぎません…。

左の写真は一昨々年の鉄研メンバーによる都電巡見の一コマで、左から四十七回生須田さん、同秋元さん(会長)、同川村さん、四十九回生山下さん(最後の会長)です。



二十回主パイロット三人組から

かつて石神井の同級生であった我々三人は、現在、日本航空のパイロットとしてヨーロッパやアジアの空を飛んでおります。石神井を巣立って三十年の時は流れ、我々もそれぞれ高校生の子を持つ親になっておりますが、いまだに顔を合わすと、あの三年H組の頃にタイムスリップしてしまいます。それぞれ、テニス、バスケットボールに汗を流した日々、三年の冬になっても受験勉強そっちのけで、行きつけの喫茶店で三時間、四時間もたべっていた日々、そんな頃がついこの間の様に蘇ってきます。パイロットの採用試験も成績や偏差値でなく、明るく楽天的な性格が買われたようです。どうぞ現役の皆さん、小さなことにとらわれず、思い切り学校生活を楽しんでください。そして何かつらい事、悲しいことに会ったら、取りあえず笑っちゃおう、これが石神井のよき伝統ではないでしょうか。高校時代の友達って素晴らしいです。大切に育んでいってください。

私は明日、札幌に向かい、その後ホノルルに飛びます。ではまた。(H)

平元 隆 (高校二十回)

山本 克 (高校二十回)

若杉 英夫 (高校二十回)



高校十八回生、集まろう

昨年は、我々高校十八回生にとって、卒業後二十年目にあたり、久し振りに同窓会に参加しました。皆そろそろ同窓会を懐かしむ年頃なのか、二十数名の同期生が集まり、近況報告や昔話に花が咲き、時の過ぎるのも忘れる程でした。

「また来年も集まろう」「もっと多くの同期生に会いたい」との声もあり、本誌上をお借りして呼びかけることにしました。高校十八回生の皆さん！久し振りに母校を訪れてみませんか。

なお同窓会では新しい会員登録簿の作成準備にとりかかることになりました。クラスやクラブの同期生の消息をご存じの方、ご一報下さい。

〔連絡先〕〒一六四東京都中野区南台四の六五の一〇

TEL 03(3382)7577

鶴飼 明弘(高校十八回)

高校二十回

(今年度満四十八才になる)方へ

私たちは、来年卒業三十周年を迎えます。盛大に同期会を行うために、そろそろ準備を始めたいと考えており、第一回の準備会(顔合せ)を、今年の総会当日、左記により開催いたしたく、奮ってご参集ください。

発起人 屋敷田広実

高橋一夫

堀越生

都筑(井口)節子

準備会 六月二十八日(土)午後一時～三時

総会 六月二十八日(土)三時

会場 本校内指定教室(当日案内掲示します)

平成9・10年度 同窓会役員候補者

任期 平成9年7月1日～平成11年6月30日

会長	高橋 勇	(中2回)
副会長	千賀 可一	(高6回) 山莊長
"	林 弘	(中2回) 幹事長
"	城 和裕	(高12回) 行事
"	高橋 一夫	(高20回) 広報
書記	佐伯 博敏	(中2回)
"	榛葉 祥子	(高7回)
"	杉本 幹男	(高14回)
会計	川口 弘	(高4回)
"	小野塚 直子	(高43回)
会計監査	道家 正昭	(高21回)
"	濱崎 隆光	(高40回)

母校側

名誉会長(校長)	栃本 忠良
参与(教頭)	久住 幸雄
"	山下 章(山莊担当)
事務局	本間 寛(庶務担当)
"	手崎 政仁(")
"	加藤 純子(")
"	木本 恵美子(")

平成8年度 会計決算報告

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

	予算	決算	備考
1)収入の部	7,063,331	8,706,096	
繰越金	1,460,331	1,460,331	
入会金	1,600,000	1,676,029	48回生分
年会費	4,000,000	5,345,370	2,755人分
雑収入	3,000	1,366	預金利子
広告収入		223,000	広報紙掲載広告
2)支出の部	7,063,331	8,706,096	
運営基金積立	1,000,000	2,000,000	積立金累計 14,000,000
総会費	800,000	985,195	
本部費	400,000	663,364	体育館707シート367,277
幹事会費	200,000	300,000	前年度未払い分含む
広報費	1,000,000	898,250	きずな45号
発送費	2,000,000	1,937,842	
校歌祭参加費	300,000	306,666	幟旗3本購入
山莊助成費	300,000	300,000	管理運営費
山莊補修費	900,000	900,000	
予備費	163,331	0	
3)差引残額	0	414,779	次年度の繰越金とします

上記の通り、平成8年度の会計を決算して報告いたします。

平成9年4月17日	会計	加藤 純子
"	"	井上 光子
"	"	加藤 容子
"	"	仙頭 美央

上記の会計決算を監査した結果、適正であることを認めます。
平成9年4月21日 会計監査 木本恵美子 濱崎 隆光

次号「きずな」四十七号にむけて

○原稿募集

同期会等報告、同期会等案内、会員近況、同窓生の情報などをお寄せ下さい。

○編集委員募集

編集長板谷方彦のもと、編集・校正・広告などを担当して下さる方を求めます。特に、DTPの出来るスタッフが必要です。最近卒業の方、大歓迎します。

○広告募集

本紙カラー化のために、企業広告、個人名刺広告を大々的に募集します。

連絡先・〒102千代田区隼町三の二 有限会社エフアンドエフ内 板谷まで
電話03(5216)7346(F兼用)

編集後記

毎回の事ながら、原稿集めの遅れで、慌てています。一夜漬けの編集作業です。紙面が単調になってしまいました。杉本、青木、柴辻、棚橋の四名は、今回が最後の編集となります。来年度は、高橋、板谷両氏を中心として、カラー印刷など紙面の抜本的刷新がはかれるものと思われまます。ご期待下さい。(S)

編集スタッフ

杉本 幹男	(十四回)
青木 優好	(十四回)
柴辻 慎子	(十四回)
棚橋 玲子	(十四回)
高橋 一夫	(二十四回)
板谷 方彦	(二十七回)

同窓会誌「きずな」第四十六号

平成九年五月二十八日発行

発行人 同窓会長 高橋 勇
発行所 都立石神井高校同窓会
東京都練馬区関町北

電話03(3920)0831

四の三十二の四十八

印刷所 有限会社日本工房

東京都板橋区板橋一の十六の五

電話03(39661)3001